進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる**独創的，萌芽的研究を活発に行っている若手研究者．**

2．研　究　助　成……総額1億3千万円前後，10件程度．

3．候補者推薦件数……1学協会から2件以内．

III．学会必着日（I，IIとも）

……平成7年9月11日(月)

研究会・集会案内

第28回　月・惑星シンポジウム講演募集

標記シンポジウムを下記により開催します．月・惑星科学の分野全般においてわが国における最近の進展はめざましいものがありますので，本シンポジウムではそれらを反映した月・惑星の起源，進化，環境などに関連した多方面の研究成果の報告を歓迎します．

なお，将来の月・惑星探査ミッションに関連した講演は別に開催される太陽系科学シンポジウムでお願いします．この方面の研究に関心をお持ちのみなさまの多数の参加をお願いいたします．

記

期日：平成7年7月31日(月)～8月2日(水)

場所：宇宙科学研究所本館2階会議場

お問い合わせは，下記の世話人にお願いします．

清水幹夫（0427-51-3911　内線2529）

水谷　仁（0427-51-3911　内線2515）

訂正

天文月報第88巻7号306頁最後2行は302頁右側下から8行目の③の注釈の文章です．

編集後記

今月号の編集をもって天文月報編集部が交代します．前編集部が実施した紙面改革の仕上げを目指して活動に入った本編集部ですが，初年度は天文学会財政危機を乗りきるためもあり，改善できなかった点が多々ありました．しかし，平成6年度には，表紙デザインの変更や書評欄の改訂，月報だよりの項目整理などを実施しました．発行の迅速化を目指して編集作業の電算化移行計画を企画しましたが，これは次期編集部にはありがたくない宿題となってしまったかもしれません．

日本天文学会にも電子メディアによる情報伝達の波がようやく訪れ，電子メール網 tennet が発足しましたが，天文月報による情報伝達は当分の間，日本天文学会で最も重要なメディアであり続けると思っています．「開かれた学会」を現実のものとするためには，会員相互や理事会・評議員会と会員間で必要十分なだけの情報を交換する必要があり，天文月報の負うべき役割は益々重要になってきています．この役割が，これまでの月報だよりの充実で，少しでも強化できたのであれば，うれしい限りです．

「理科離れ」が社会問題となる中，「天文学の発展と普及を目的とする」日本天文学会において会員諸氏に研究の成果を研究者が直接語る解説記事も一層の充実が必要と考えます．会員諸氏の要求は内容・レベルとも数年前に比べて著しく多様化しているのではないでしょうか．この点に関する天文月報の対応は（著者の諸氏のご努力に負うところは当然の功績として）前編集部が実現した紙面改革によるところが大で，我々はそれを踏襲したにすぎません．しかし，現状は満足できるものではありません．本編集部では力及ばなかったところです．どのような内容・レベルの解説記事が望まれているのかなど天文月報の紙面・内容について，会員諸氏のご意見をうかがいたいと感じています．星空市場の利用が不十分であったなど具体的な反省点も多々あります．次期編集部に，もうひとつ宿題を残してしまったのかもしれません．

2年間の編集部を終えて感じますことは，企画を考え具体化するには時間と労力とがともに必要だということです．新編集部には大胆かつ着実な天文月報の改善を期待しつつ，バトンを渡そうと思います．

（1993-94年度天文月報編集委員）

編集委員　関口和寛（編集長），末松芳法，田代　信，辻本拓司，中川貴雄，林 左絵子，平野尚美，宮坂正大
平成7年7月20日　発行人　〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内　社団法人　日本天文学会
印刷発行　印刷所　〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12　啓文堂松本印刷
定価700円(本体680円)　発行所　〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内　社団法人　日本天文学会
電話　(0422)31－1359（FAX自動切換）　振替口座 東京 6-13595